

令和4年度 学校評価表（後期）

大崎上島町立大崎上島中学校

教育目標	学校教育目標	<p>豊かな心と高い志を持ち、主体的に学び表現できる生徒の育成</p> <p>生徒が主体的に学ぶ授業の創造 ～「逆向き設計論」を生かした単元設計・授業設計～</p>	<p>【ミッション】</p> <p>大崎上島の将来を担う、たくましく生きぬく生徒の育成 ～ふるさと大崎上島を愛する生徒を育てる～</p>	<p>【ビジョン】</p> <p>◀めざす学校像▶ ○安心、安全な学校 ○教職員が協働し、主体性と創意工夫を大切にする学校 ○地域に開かれ、保護者、地域と相互に支え合い、誇れる学校</p>	<p>◀めざす生徒像▶ ○自らの夢や目標に向かって主体的に学び行動できる生徒 ○自分に自信と誇りを持ち、仲間への思いやりと優しさを身につけている生徒 ○故郷に誇りをもち、地域の文化と人々を大切にしている生徒</p>
	研究テーマ				

領域	中期経営目標 短期経営目標 (子供の姿)	評価計画 目標達成のための方策	項目	達成率	達成度	評価	自己評価		取組の成果と今後の改善方策
							結果と課題の分析		
主体的・対話的で深い学びの質の向上	改善の視点を明確にした研究授業	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を焦点化した校内授業研究を実施する。(年5回以上)</p> <p>・課題に対して、自分の考えを持ち、学び合いながら、課題解決に取り組み、考えを深める授業改善を行う。</p>	<p>全国学力・学習状況調査では、全国、県平均3ポイント上回る。標準学力調査では、今年度、前年度と比較、各教科平均5ポイント上回る。質問紙(37)課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。肯定的評価の割合(80%)</p>	80%	106%	B	<p>生徒が見通しを持った主体的な学びを目指した単元設計論を研究テーマに掲げ、校内授業研修を6回実施した。また、夏季休業中にも理論研修を実施した。全国学力・学習状況調査各教科の全国平均と比較すると、国語(+2)、数学(+0.6)、理科(+5.7)となり、理科で目標を達成することができた。全国学力・学習状況調査質問紙では、生徒の肯定的評価は87.6%となっており、目標に到達できた。標準学力調査の結果はまだ出していない。</p>	<p>「逆向き設計論」を取り入れた単元構成や「本質的な問い」による授業改善について、外部講師を招聘した授業研修を行ったり、夏季休業中に理論研修を行ったりとすることで、各教員が自分の授業づくりや単元設計を見直すことができた。今後、「逆向き設計論」を深めた授業づくり、単元設計をさらに深めていくことが課題となる。全国学力・学習状況調査については、各教科で成果と課題を分析し、学習指導に生かしており、また、標準学力調査についても教員担当者を中心に分析を行い、次年度の指導に生かしていく。</p>	
			<p>個人思考、グループ、全体交流について意図的に仕組む。自分の考えを相手に分かりやすく伝わるように発表させる。</p>	80%	90%	113%	A	<p>生徒アンケートでは、肯定的評価が高く、目標を達成することができた。しかし、教員の視点で授業中の実態と比較すると、自分の意見を相手に伝えようと苦手をしている生徒は多く、ペアやグループでの活動が進まないこともある。ペアやグループでの活動の時間も大切にしながら、個人思考の時間を充実させることも必要になると考えられる。</p>	<p>各教員が授業の中で学び合いの場面を積極的に設定し、自分の考えを伝える場面を設定している。レベルアップのためには他の人の意見を聞きたくなるような、意見を交流したくなるような魅力的な課題や問いの設定も必要になってくる。また、今年度から広島県公立高校の入試で「自己表現」がある。授業だけでなく、様々な学習活動や部活動の中でも自分の考えを表現する場面を多く設定しようとしている。帰りのHRの「1分間スピーチ」の時間の充実も今後の改善方策の1つになると考える。</p>
			<p>・定期的な研修を実施する。(毎月1回)</p> <p>・毎月1回以上ICTを活用した授業を行う。</p> <p>・学期に1回オンライン授業を行う。</p>	80%	98%	113%	A	<p>ICTを活用した授業に対する肯定的評価の割合は、生徒98%(前期より+7)、保護者95%(±0)、教職員92%(+9)であった。生徒がICTを活用している自らが、家庭内でも学校の様子を伝えてきているため、保護者の数値も高いことが伺える。教職員の数値も上昇していることから、授業内での活用場面も増えていることが分かる。</p>	<p>引き続きICTを活用した場面を増やすとともに、様々な事例等も職員研修で紹介することで、必要に応じて活用する場面を増やしたい。また、これらも学習を定着させるために有効と思われる場面には、意図的にICTを活用して授業を行っていく。</p>
			<p>・家庭学習の習慣化に向けて「学び方マニュアル」の取組徹底を図る。</p> <p>・個別学習の充実を図る。</p> <p>・授業規律の徹底を図る。</p>	70%	生 61% 保 91% 教 53%	生 67% 保 75%	B	<p>生徒アンケートでは、1年63%(前期より+19)、2年38%(−12)、3年81%(+16)が達成できていると回答し、全体では61%(+7)が達成できていると回答しており、目標を下回っている。受験を意識した3年生の学習意識に加えて1年生も数値が大きく伸びている一方で、2年生での達成率が大きく減少した。保護者の割合は、1年44%(−6)、2年42%(+21)、3年69%(+11)、保護者も全体で53%(+9)となっている。数値の向上から家庭での学習時間が定着している一方で、2年生での家庭学習時間が定着していないことが伺える。</p>	<p>学習することが自身にとって重要であることを自覚した3年生には意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。家庭学習の習慣の定着を、受験を意識して取り進めさせるためのものとして捉えず、自習進捗のための継続して取り組む習慣として意識させる。生徒会学習委員会の家庭学習状況の把握・実施の呼びかけを継続し行うことに加え、家庭との連携を通じて、学校や家庭全体で学習に対する意識を高める取組を行い、意欲向上に努めさせたい。</p>
豊かな心	自己有用感の向上	<p>学校生活、行事、体験活動、生徒会活動等を行う中で、肯定的評価を常に入れる。</p>	<p>生徒アンケートによる「私の良さは何から認められている」の肯定的評価の割合</p>	80%	85%	106%	A	<p>生徒アンケートでは、1年78%(前期より+10)、2年84%(+9)、3年94%(+3)、全体では85%(±0)が自分の良さが周りから認められていると回答しており、全体の数値に変化はない。1、2年の数値が準拠している。2年生は互いの関係を確立し、お互いの認め合える場面が増えてきたことが数値の上昇に反映できると推察できる。1年生はお互いの人間関係を把握する上で意見が衝突する場面が見られたことから数値の減少が推察できる。</p>	<p>生徒間の評価(褒め掛け)による認め合いの場面設定を学校全体で行える場面を設け、互いを認め合える環境をつくることで、生徒の自己肯定感の向上に繋がった。生徒会活動の意見の衝突の場面が多くなり、それに影響を考える場面が増えている。お互いの解決方法を提示し、生徒同士がお互いを認め合えるよう働きかけた。日常的に生徒と教師が話をする場面は増えているため、情報交換を密に行い、全体で協力して改善できるよう努めたい。</p>
			<p>生活4項目(大きな声で返事をする、相手に応じた姿勢・挨拶をする、手を洗う、相手を見て話を聴く。)及び「ありがとう、靴そろえ」を徹底する。</p>	90%	生 88% 保 96% 教 77%	生 95% 保 106% 教 86%	B	<p>生徒の肯定的評価は「返事80%(前期より+4)」、「挨拶80%(−6)」、「時刻97%(+2)」、「聴(95%(−2))」、「ありがとう98%(−1)」が揃え94%(+1)となっており、「返事」と「挨拶」以外は目標値を越え、できているという認識である。一方、教職員から見た肯定的評価は、「返事67%(−1)」、「挨拶64%(−19)」、「時刻92%(±0)」、「聴(93%(+10))」、「ありがとう93%(−7)」、「靴揃え79%(−6)」であり、生徒と同様に「返事」、「挨拶」に課題があるといえる。また、「返事」、「挨拶」については、生徒の認識と保護者、教職員の認識は異なる。また、保護者の学校の生活4項目指導に対する肯定的評価は96%(+6)であり、家庭でも全ての項目について丁寧に指導がされている。</p>	<p>生活4項目のうち「時刻」は、「1分前着席」と「黙想」に取り組んでおり、共通認識をもって指導を行っている成果が見られている。さらに教職員が意識統一を図って継続指導していった。教職員の意識統一の不十分さが「挨拶」、「聴」等は、例年と比べ、教職員評価が大きく低下した。2学期後半から教職員が意識して良さ手本を示しつつ、生徒会活動での取組を行い、授業や部活動など様々な場面で全員への指導を行っている。今後も「生活4項目」等について、自分たちの姿を客観的に見つけ、課題に気づかせる機会を設け、適切な行動力のある生徒へと成長を促していきたい。</p>
健全な身体	運動能力の向上	<p>体力テストにおける学校全体の課題克服に向けて授業、部活動等で取組を徹底する。</p>	<p>新体力テスト、AB評価の割合</p>	70%	49%	70%	C	<p>実施時期が春休み明けという点もあり、全体的にテスト結果が不十分であった。課題としてあげられる項目については、男子は全身持久力力を要する長距離走、スピードを要する50m走に課題がある。女子は、筋力、筋持久力を要する上体起こし、敏捷性を要する反復横跳びに課題がある。</p>	<p>前期以降の保健体育の授業では、ハレーボール、剣道、マツト運動、長距離走、短距離走、男子では前記に上った全身持久力を要する長距離走だけでなく、走り方や呼吸法などの指導を通して、身体開始前と比較すると大幅に記録を伸ばし生徒が多数いた。しかし、柔軟性を要するマツト運動は、男女とも体中の可動域の狭さや、柔軟性に多課題があり、基本的な技である前転、後転もできない生徒がいたことでも新しい課題も見つかった。各単元で柔軟性を重点的に行うなどの取組が行われていた。</p>
			<p>各種大会等に積極的に参加するとともに、生徒が自分たちで考え、意欲的に活動できるようにする。</p>	90%	生 92% 保 93% 教 85%	生 102% 保 105% 教 94%	A	<p>生徒の肯定的評価は、92%となっており、生徒自身が積極的に部活動に参加しているという意識を持っており、「顧問の先生は熱心に指導している」という項目でも、96%という結果となった。これは、生徒、教職員の信頼関係が構築されており、同じ目標を持って取り組んでいる結果である。今後も、活動の充実を図ってきたい。なお、保護者の肯定的評価は95%であった。</p>	<p>ほとんどの生徒が意欲的に部活動に参加している。新型コロナウイルス感染症防止のため、感染防止を意識して、できることを全力で取り組み、新しい練習スタイルを意識して活動ができていた。2年生を中心に各部活動がまとまり、各部の目標達成に向けて取り組んでいる。また、部活動は学校生活の充実に関わる重要な活動であることから、教職員、保護者、生徒を三位一体として、活動してきたい。</p>
			<p>健康安全</p> <p>給食指導を通して、マナー及び完成をめざした食育の指導を徹底する。</p>	85%	90%	106%	A	<p>健康的な食事に関するアンケートでは、1年97%、2年84%、3年90%、全体で90%であった。配膳時にはバランスよく給食を注ぎできるように指導するとともに体調や個々の食べられる量に配慮している。全体の達成率は目標に達しているが、各学年の実態はそれぞれであり、課題も異なると考えられる。食育する生徒の増加や、食への関心や意欲が高まるように、定期的なアンケートの実施や食育指導に取り組んでいきたい。</p>	<p>目標には達しているが、前期と比較すると全体で2%減少している。原因として、好き嫌いや食に対する関心が低下しているのではないかと考えられる。好き嫌いなく食べられるように生徒へ声かけ・指導を行い、放送や動画などを活用して食育の推進に努めていきたい。また、体力づくりとも連動して取り組んでいきたい。</p>
信頼される学校	積極的な情報発信	<p>・定期的な種々の配付物やHPの更新を図ることで学校の様子伝える。</p> <p>・家庭連絡、家庭訪問を積極的に行い、信頼関係の構築を図る。</p>	<p>保護者アンケートによる「学校の様子がよくわかる」の肯定的評価の割合</p>	90%	89%	99%	B	<p>ホームページに係る保護者アンケートによれば、肯定的評価が71年9%、2年75%、3年100%、全体84%となり、前期「比べ5ポイント増加している。また、学校だより・学年通信・学級通信・保護だよりなどを定期的に発行し、「学校の様子がよくわかる」の肯定的評価は、全体789年(1年:90%・2年79%・3年:97%)になり、前期と同結果となっている。</p>	<p>学校より学年通信・学級通信・保護だよりなどを定期的に発行することができた。また、ホームページを開覧する方が増加している。即座に届くメール配信については早く情報が届くというの思いを持っていただきたい。今後も、学校側からの一方的な情報発信だけでなく、生徒の心に関わる情報と具体的な信頼関係を築くと継続していきたい。</p>
			<p>地域との連携等を意図的、計画的に行い、総合的な学習の時間等の充実を図る。</p>	90%	91%	101%	A	<p>生徒の肯定的評価は、後期1年85%、2年87%、3年100%、全体89%であった。【1学年】総合的な学習の時間では、前期で暮らしや時・空間はどんな町かについて世代別に考えたことを踏まえ、後期は「福祉(ふたんのみんなのくらしの「い」あわせを考える)」の考え方を学んだ後、「高齢者に焦点化し、高齢者に携わる仕事を地域で実践している方」による講話やグループワーク、体験活動を行った。大崎上島町の高齢者を中心とした福祉や子ども高齢化の現状や課題について知った上で、自分たちでできることについて考えたことができた。アンケート実施後に、講話、グループワーク、体験活動を取り組んでいたため、前期と比較し、数値が低下したと考えられる。【2学年】島内外で働く方を探し、様々な職業に関する体験を「働く」ことの意味について考え、自分自身の「働くうえで大切なこと」について考えた。総合的な学習の時間では、後期「プログラミング学習」に取り組み準備が大半年を占めていたため、大崎上島に関する内容が少ないことから数値が低下したことが推察できる。【3学年】大崎上島の未来を考えることを目的に、大崎上島の集大成として文化祭での劇発表を行った。劇発表に向けて、劇の内容に関するアンケートをとり、それをもとに脚本づくりを行い、演出や衣装も考えるなど生徒が主体になって取り組んだ。また、文化祭前には、東京から来られた3名の劇団員の方にアドバイスをいただいたことで、よりよい劇を作り上げることができ、本番は全員が納得する発表となった。そのため生徒の肯定的評価も非常に高いものとなった。</p>	<p>【1学年】今年度は、前期で大崎上島町で暮らすさまざまな人や世代によって暮らしやすい町とはどんな町かについて、まず、世代別で考えた後に、3年間を通して、各世代に焦点を当てながら学び、3年時に劇等の形を発表・提案することを見据えつつ進めていった。後期は、すべての人に寄り添う福祉の考え方を学んだ後、「少子高齢化」「高齢者福祉」に焦点化し、「ふたつのおおきな」の介護支援専門員の方から「介護福祉士(の役割、看護、介護士としての仕事、さまざまな場面で高齢者に携わる方から学ぶこと)ができた。また、大崎分教室の中華部1年生がアテンドスポーツを通して交流したことで、さまざまな人がいることを実感している姿が見られた。今後も、学年間の繋がりを意識した実践をしていきたい。【2学年】職場体験学習、修学旅行を通して、他地域と仕事や風土について比較する中で、様々な情報を収集し、大崎上島の良さや課題について改めて考えることができた。次年度は、プログラミング学習等の情報処理学習の一環として大崎上島の現状について集約し、発表するつもりが必要となる取組を行うことで、情報と考える力、他者より学びを学ぶことによる学習を促進していきたい。【3学年】生徒自身が大崎上島の現状や課題を考へ、「大崎上島学」の集大成として劇発表とすることができると意識できたと考える。また、今年度劇団員の方々に強い影響を受けた、自分の役割を磨く演技を生徒にも向けたい。可能であれば、今後も引き続き劇団員の方々に指導を受けることができれば、生徒にとってプラスになると思われる。さらに劇発表でも大崎上島を大切に表現するだけでなく、大崎上島を「宝島」として感じることができた。</p>
業務改善	行事の精選と時間外勤務の削減	<p>・学校行事、地域行事等の見直しを行い生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>・分掌の組織化をさらに推進し、業務の分担を図る。一斉退校日を毎月4日設定する。</p>	<p>・学校行事、地域行事をそれぞれ1つ以上削減する。</p> <p>・時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合</p>	60%	51%	85%	B	<p>・新型コロナウイルス感染症防止により、地域行事や学校行事が再開しつつあるものの、まだ、制限されるものもある。今まで中止していた行事の再開に対して、行事の継続の観念を感じている。</p> <p>・時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合は8月は100%であった。中学校の場合、放課後の部活動などが時間外勤務時間と関係があると考えられる。また、昨年度と比較すると、37%から14ポイント増えている。</p>	<p>分掌によっては部会を開くなどして組織的に動いている。業務の分担を行い、仕事量が個人に集中しないようにするなど工夫も見える。若手に任せ、一緒に考えるような働きを継続したい。また、業務改善では「劇演にメリハリをつける」ことを目標に、毎月月曜日・金曜日・土曜日・日曜日に設定し、18時までには退校することとした。その他の曜日については、19時退校には全員職員が退校しているが、評価項目の時間外勤務時間毎月45時間以下の職員数の割合を、目標に近づけるよう、さらに工夫していきたい。</p>
			<p>休養日の設定</p>	80%	100%	125%	A	<p>・計画的な年休を5日以上取得する。</p> <p>・長期休業中は、連続3日以上休養日を設定する。</p> <p>・部活動については、週2日の休養日の設定と練習試合等の時間短縮に向け改善を図る。</p>	<p>週当たりの休養日、計画的な年休、退休日の部活動、長期休業中休養日の取得の割合</p>

【評価指標】

A:達成 100%≧
B:ほぼ達成 80%≧(B)<100
C:もう少し 60%≧(C)<80
D:できていない (D)<60